

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年2月9日 No.91

第2回学校関係者評価委員会

第2回目の学校関係者評価委員会を開催しました。高浜市内の小・中学校は学校ごとに「学校関係者評価委員会」を組織し、学校・家庭・地域が三者一体となって協働して学校づくりが展開されるよう委員のみなさんから指導助言をいただきながら学校運営の改善を図っています。第1回目は6月に行い、「学校経営の方針」「実現に向けた方策」等に基づき、令和5年度の推進計画について説明をさせていただきました。

学校経営ビジョン

自立した大人になるための基盤を育み、自信と希望をもって生きていくことができる力を育むための学びを保証する教育を追究する



ともに学びを深める授業



自ら創りだしたフラッグ演技

経営方針

- ① 教員の授業力向上を図る
(子どもが聞き合い、考え、語り合い、ともに学びを深める授業を目指す)
- ② 学年・学級経営の充実
(ありがたい学年・学級の姿を子どもたちと共有し、PDCAサイクルを活用して行う)
- ③ 子どもの主体性を育む
(子ども自身が自分を育てるという主体的な態度を身につけられるよう学校・学年行事や児童会活動等への支援を強化する)
- ④ 地域愛を育む教育活動の展開
(地域の方々と協働し、感謝する心と地域愛が育つ活動を行う)
- ⑤ 教職員の働き方改革に係る業務改善
(教職員が心身ともに健康で、毎日、笑顔で子どもたちの前に立つことができるよう業務改善を進める)



主体性を育むベア交流



地域愛を育む葡萄人形制作

第2回目は、推進計画に基づき進めてきた今年度の取組状況及び自己評価について報告し、学校の取組についてご意見と評価をいただきました。当初は、取組状況及び自己評価について報告をしたあと、授業を見ていただき、ご意見をいただくという予定でした。しかし、インフルエンザの流行により学級閉鎖中のクラスがあったり、教員の欠席もあり、評価委員のみなさんも半数が欠席となってしまいましたので、授業参観は取りやめました。以下に委員のみなさんからいただいたご意見を紹介します。

<教職員の授業力向上を図る：学校自己評価B>→委員評価：A

- ◇公開授業を参観できる教員が少ないことについて、高浜中学校でもその時間が空き時間の先生でないといけない。現状のできる範囲での参観でよいのではないかと。 <近藤陽子 様：高浜中校務主任>
- ◇教員の授業力向上のためICT機器を活用した取組が進んでいる。 <横井光義 様：民生委員>
- ◇取り組まれている先生方の意識がとても高いと感じた。子どもアンケートの結果を見ても、6月より12月の方が低いところもあるが、子どもの意識や考え方は向上していると感じる。 <内藤尚仁 様：吉浜まちづくり協議会>
- ◇発問の仕方を考えたり、対話を生み出す工夫がなされている。実践に取り組み、振り返って次はこうしたいというように、次につながる取組が大切だと思っている。 <小林美里 様：吉浜北部保育園長>

<学年・学級経営を充実させる：学校自己評価B>→委員評価：B

- ◇学年の交流は昔はなかったこと。小さい子はお兄さん、お姉さんの姿から学び、大きい子は小さい子の前では頼もしい姿を見せている。感銘を受けた。 <横井光義 様>
- ◇学級訓を意味のあるものにしていける取組だと思う。キャリアパスポートは中学校でも扱い切れていないところもある。今後の課題。 <近藤陽子 様>
- ◇私も仕事で経営の一角を担っているが、評価Aというところまではなかなかたどりつかない。それでもこつこつと取組を重ねていくことが大切だと思っている。 <内藤尚仁 様>
- ◇高浜カリキュラムの実践はなかなか難しいと思うが、次への期待を込めてのB評価としたい。 <小林美里 様>

<子どもの主体性を育む：学校自己評価A>→委員評価：A

◇授業参観ができなかったことは残念だが、(説明や資料から)子どもがいきいきしている様子が分かる。大規模改修工事で先生方も気を遣うことが多いと思うが、子どもたちのために進めてください。

<横井光義 様>

◇異学年交流は、上級生、下級生どちらにとってもよいこと。普段はわちゃわちゃしている高学年も低学年の前ではしっかりしていた。お互いに見せたい姿を意識することができる。低学年には憧れの姿として、高学年は先輩としての意識が高まりやすいと感じます。

<近藤陽子 様>

◇地域で子どもたちの様子を見てみると、積極的に力を貸してくれる。大人がためらうようなゴミも拾って くれる。すばらしい。また、児童会役員とまち協の打ち合わせの設定、ありがとうございます。

<内藤尚仁 様>

◇「主体性」 今求められていること。大切にしてほしい。

<小林美里 様>



<地域愛を育む教育活動を展開する：学校自己評価A>→委員評価：A

◇保護者からの相談の中に不登校があると聞いた。不登校の対応、改善したケースの報告もあったが、うまくいかないケースの方が多いと思う。不登校対応にマニュアルはなく、その子に合った対応をしなければならぬと思われる。苦しくなりますが…。地域との交流はよくやっていると日頃から感じている。

<横井光義 様>

◇地域との活動をどの学年も行っていて、いいなあと思う。学校だよりやブログで知らせているところも同様ですが、「業務改善」に逆行していないか少し心配。

<近藤陽子 様>

◇地域の活動に親子で参加している子どもたちを見ている。子どもが親に説明をしているところを見ると地域愛が育っているなど感じる。子どもたちは地域の行事をよく知っていて、「この活動はこういうことですね」と声をかけてくれることができる。

<内藤尚仁 様>

◇園の子どもたちにも育もうとしていること。幼少期が続けてこそ根付いていくもの。ふるさとのよさをつないでいきたい。

<小林美里 様>



<教職員の働き方改革に係る業務改善：学校自己評価A>→委員評価：A

◇現状で十分ではないか。先生方にとって一番は子ども。先生は子どもを支える。この形はいつになっても変わらない。でも身体は大切。周りが先生方が働きやすい風土をつくっていききたい。先生方が笑顔で子どもたちと向き合えることを願っている。子どもたちへの温かい接し方をお願いします。

<横井光義 様>

◇どこを削減していくのか、これが難しい。年次休暇もよく取得されています。「ノー残業デー」で早く帰っても翌日は遅いということもあった。実際の仕事量を減らすことができると理想的です。

<近藤陽子 様>

◇本当の働き方とは何かが難しいですが、アンケートをとりながら方向制を整理して取り組まれていることはよいと思う。周囲と教員が求める働き方は異なると思うので、教員が求める方向での働き方改革を進めてください。

<内藤尚仁 様>

◇園でも言われることだが難しい。忙しさは時期によっても違う。ただ減らせばよいというのではなく、「子どもと向き合うため」の改善であると聞いた。本当の意味での改善だと感じた。

<小林美里 様>

◇私も保護者ですが、保護者の負担は少なくなったと感じている。「すぐーる」によって欠席連絡や参加申し込みなどができるようになった。教材の購入もネットで申し込めるようになった。一方、先生方の負担はどうかということは見えにくいですが、知り合いなどに聞いてみると大変そうだと感じる。今日は各団体の代表の方に来ていただいて、意見を聞けてよかった。アンケートは、「はい・まあまあ・あまり・いいえ」の四択だったが、「はい・いいえ」の二択で大きな傾向を把握するのもよいのではとも感じた。

<令和4年度PTA会長 坂本直敏 様>

*坂本 様には会の司会・進行をお願いしました



みなさんからいただいたご意見を、子どもたちのために学校運営・教育活動に生かしてまいります。